

【島田療育センター 居宅訪問型児童発達支援事業 自己評価総評】

- 1) ご利用者調査有効回答者割合 100.0% (対象者数: 2名、回答者数: 2名)
職員調査友好回答者割合 100.0% (対象者数: 3名、回答者数: 3名)
- 2) ご利用者調査実施期間 2025年3月 ~ 2025年3月
職員調査実施期間 2025年3月 ~ 2025年3月
- 3) ご利用者調査の分析結果と今後の取組み
(調査結果から良かった点を【強み】、改善すべき点を【弱み】として分析)

1 環境・体制整備

【強み】 各種専門職により、ご利用者やご家庭の環境にあった支援が提供されている。
本事業の目的や利用頻度、時間等について相談の上決められ、適切な人員配置(人員・専門性)が確保されている。

*今後に向けて

ご利用者・ご家族が安全に、安心して活動等に取り組めるよう、環境面や玩具、教材等の改善や職員の育成により一層努力する。

2 適切な支援の提供

【強み】 ご利用者のご家族を意向等を汲んだ上で、ご利用者に関わる専門職の意見や評価等に則った個別支援計画を作成している。
ご利用者の家庭環境や体調面に配慮し、ご利用者の成長・発達に応じて、支援内容の見直しを図っている。

【弱み】 他の児童が通う施設や地域等において、他の児童と関わる機会を提供できていない。

*今後に向けて

今後もご利用者本人の最善の利益を目指し、関わる人達が連携・協働していく。
引き続き情報の共有、適宜適切なアセスメントを行なうこと、またPDCAサイクル(Plan 計画→Do 実行→Check 評価→Action 改善…を繰り返して目標達成や改善を行なっていく仕組み)等の徹底を図っていく。
ご家族の意見を伺いながら、他の児童や家族と関わる機会について情報提供していく。

3 ご家族への説明等

【強み】 本事業や個別支援計画等について丁寧な説明がなされた上で、適宜ご家族に対して面談や助言等が行なわれている。
ご家族や関係機関、関わりのある専門職等から、必要時にご利用者の健康・発達状況について情報を共有し共通理解を図っている。
個人情報の取り扱いに十分留意されている。

【弱み】 全てのご家族に対し、家族支援プログラム等に関する情報提供が十分になされていなかった。

*今後に向けて

様々な情報の発信方法とその周知について検討していく。

4 非常時等の対応

【強み】 当センター内においては、非常災害を想定した防災訓練の実施や感染症対策の徹底がされており、訪問支援員はその知識や経験を有している。

【弱み】 訪問時の非常・災害時の対応については、滞在時間が短いこともあり訓練等の実施にまで至っていない。

* 今後に向けて

訪問時等に防災訓練等を実施することは難しい場合も、ご家族および訪問施設と緊急時対応等のマニュアルの共有や個別支援計画内での言及を丁寧に行なっていく。
災害時伝言ダイヤルによる安否確認を実施したご利用者もいたが、全ご利用者および全訪問支援員にも参画してもらうことを検討する。

5 満足度

【強み】 ご利用者およびご家族に安心感をもって事業をご利用いただいている。

* 今後に向けて

常にご利用者やご家族の意向を確認しながら、体調や家庭環境の変化、成長に応じた支援を提供していく。
ご不安やご不満等が生じたときに遠慮なく伝えていただけるよう関係性の構築に努めると共に、相談体制の工夫を講じていく。

4) 職員調査の分析結果と今後の取組み

【強み】 外来等で専門的な療育・発達支援を受けることが難しいご利用者に対し、適切な専門職が個別支援計画を基に、ご利用者の医療面や発達面の状況、家庭環境に合わせた支援を提供している。
必要に応じて、複数・多職種の専門職が連携して支援を行なう他、ご利用者やご家族、ご家庭の状況に応じて通所支援等に繋げたり、他のサービスと協働したりして繋ぐ支援も行なっている。

【弱み】 ご家族間の交流支援等が十分になされていない。
今年度より取組みを開始した自己評価や支援プログラムに関して、全職員への周知が十分に図れていなかった。

* 今後に向けて

個別支援計画や支援プログラムの作成は、多職種が連携し、ご利用者のご要望や個性を重視した内容となるよう、より一層の努力を講じる。
今年度は、他の関係機関との会議や就学等に伴う移行支援を要するご利用者がいなかったが、今後会議等への参画が必要な場合は、適宜対応していく。
関わる職員全員にご利用者・ご家族の多岐にわたる支援内容や事業運営についてリアルタイムに共有できていなかった点があり、「わからない」の回答が見られた点について、職員間での情報伝達の強化に努めていく。

5) 実施機関： 島田療育センター

6) 作成日： 2025年3月28日